
9月の普及活動状況

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取組～



岐阜県農政部農業経営課

= 目 次 =

ダイジェスト版	1
---------	---

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課	4
西濃農林事務所農業普及課	6
揖斐農林事務所農業普及課	8
中濃農林事務所農業普及課	10
郡上農林事務所農業普及課	12
可茂農林事務所農業普及課	14
東濃農林事務所農業普及課	16
恵那農林事務所農業普及課	18
下呂農林事務所農業普及課	20
飛騨農林事務所農業普及課	22

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当	24
-------------	----

< 9月普及活動状況ダイジェスト版 >

新たな産地づくりの推進 ~ 活力ある新産地づくり ~

岐阜農林 アスパラガス **JAぎふアスパラ塾開塾**

JAぎふは8月27日、黒野農産物流通センターで「JAぎふアスパラ塾」の開塾式を行った。塾生をはじめJAぎふ職員、普及指導員ら合わせて20人が出席した。

同塾では普及指導員が講師となり、アスパラガスの生産を志す塾生が、栽培の基本技術の習得、ハウスの設置、管理作業の実習を行うなど、年間6回程度のカリキュラムでアスパラガスについて学ぶ計画である。今年度は14人の塾生が入塾した。



【開塾式の様子】

西濃農林 ブロッコリー **直播栽培実証圃の経過**

農業普及課では、育苗の省力化を図るために、直播栽培実証圃を設置している。8月19日に輪之内町において、露地ではシーダーテープ、マルチ区ではスキップシーダーにより播種した。作業時間はシーダーテープに対しスキップシーダーでは約2倍の時間がかかり、マルチ区では手作業の播種の方が早いと思われた。発芽率はマルチで約90%、露地は約50%であった。

揖斐農林 かぼちゃ **かぼちゃを一斉収穫、出荷・販売始まる**

かぼちゃの新産地づくりを目標に、今年度から計90aの水田で、品種、栽培体系、省力栽培の実証ほを設置し、栽培管理の検討を進めている。

各法人とも9月上旬を一斉収穫としたため、収穫前の台風やその後の降雨により、一部の法人では病害が発生し、収量に大きく影響した。

今後、農業普及課では、水田農業経営におけるかぼちゃ作りについて課題を明確にし、販売状況等も考慮しながら関係者と検討していく予定である。



【一斉収穫(9/8)】

中濃農林 円空さといも **円空さといも生産振興会議**

9月6日と20日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの販売方法、新規栽培者の勧誘等について検討している。

新規栽培者については、募集チラシの作成・配布等により勧誘する方向で話を進めている。

農業普及課では、チラシへの提案等、生産振興会議への支援を行い、さといも産地の活性化に取り組んでいる。

郡上農林 夏秋いちご **農産加工品販売**

ひるがのサービスエリア内において高鷲町内で栽培製造された農産加工品が店内で販売されている。

マスコミでのPRもあり、販売数量・売り上げは伸びているが新たな商品開発で儲かる農産加工品の開発と商品化を農業普及課としても農業者と連携して支援していく見込みである。

農業者も「ひるがの高原」という地域の名称がブランドであると認識し、付加価値のある農産物の生産と農産加工品の商品開発に意欲を高めており、儲かる農業、農業観光を切り口にした地域振興を郡上農林事務所職員が一丸となり支援していく



【春まちにんじんジュース】

下呂農林 龍の瞳 **龍の瞳現地検討会開催**

下呂地域では、龍の瞳生産組合による適期刈り取りに向けての現地研修会が開催された。

9月14日に組合の下呂支部による研修会が開催され、関係組合員のほ場を巡回し、現在の登熟状況、品質、収穫開始時期等について意見交換が行われた。

本年は8月中旬以降、気温が低く推移しており、収穫開始も9月中下旬と昨年よりやや遅くなる見込みである。

農業普及課としては、刈り遅れによる胴割粒、早刈りによる未熟粒の発生防止について指導を徹底していく。



【現地検討会(下呂市宮地)】

飛騨農林 宿儺かぼちゃ **ぎふ伝統食文化グランプリ1次審査通過!**

9月12日、瑞穂市の市民センターにて「ぎふ伝統食文化グランプリ(主催; 県庁農産物流通課)」の1次審査が行われ、農業普及課では宿儺かぼちゃの試食やPRの支援を行った。

県内19団体が参加し、宿儺かぼちゃをはじめ6団体が1次審査を通過した。2次審査は10月10日にイオン各務原ショッピングセンターにおいて一般消費者の前で行われ、グランプリが決定される。



【一次審査プレゼンの様子】

主要農産物の生産振興 ~ 売れる農産物づくりと産地の強化 ~

恵那農林 恵那たまご **恵那市の新特産品「恵那たまご」好評発売中**

県の農業6次産業化促進支援事業を導入して商品化を進めていた「恵那たまご」が完成し、9月16日から販売を開始した。

「恵那たまご」は、農業普及課の提案により安藤養鶏場と恵那農業高校の3者が連携して開発した卵のみそ漬。管内の営農組合が生産した飼料米を餌として活用した純国産鶏「もみじ」の卵を、恵那農業高校の「農高みそ」をブレンドしたみそ床に漬けこんで商品化した。

恵那駅前前の「えなてらす」やイベント等で販売を開始したが、すぐに売り切れる人気ぶりで、恵那市の新しい特産品として期待が高まっている。



【恵那たまご販売の様子】

担い手の育成確保 ~ 明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成 ~

岐阜農林 **白山能郷の郷営農システム研究委員会**

コシヒカリの収穫時期を迎え、機械の共同利用へ向けた取組の一つとして、コンバイン(4条)のデモ機実演が行われた。約1haの収穫作業を行った結果、既存コンバイン(2条)に比べ作業効率が良く、参加した農業者も関心が高かった。

今後、費用対効果などを試算し、集落営農サポーターと研究委員会へ機械の共同利用等に向けた提案を行う。

地域の動き等 ~ 魅力ある農村づくり ~

可茂農林 **大豆のお菓子「可児っ子大豆 カリッコ」商品発表会**

(有)土利夢ファーム可児は、可児市産大豆(フクユタカ)を使用した特産品として豆菓子の製造・販売について検討を重ね、このたび、商品名「可児っ子大豆 カリッコ」を開発した。9月10日からJA直売所(とれたっぴろば可児店)や道の駅等での販売開始に先立ち、9月2日にJAめぐみの可児本部において、地域の農業者や行政・関係機関等約50名を集め、商品発表会を開催した。農業普及課は今後とも、大豆生産や商品販売面において支援を継続する。



【開発商品「カリッコ」の披露】

飛騨農林 **鳥獣害対策の地域座談会を開催!**

9月27日、高山市丹生川町大萱地区にて飛騨地域鳥獣被害現地支援チーム主催による「地域座談会」が開催され、地元住民70名が出席した。

農業普及課からは地域ぐるみで取り組む鳥獣被害防止対策についての説明を行った、出席者からは「今までは個人的な対策を実施していたが、これからは集落全体で農家・非農家に関わらず地域の問題として取り組んでいきたい」との意見が出るなど、地域ぐるみの取り組みが進むきっかけとなった。



【説明を聞く参加者(丹生川町)】

~ 農林事務所農業普及課 農業経営課技術支援担当の取組 ~

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

J Aぎふアスパラ塾開塾)

J Aぎふは8月27日、黒野農産物流通センターで「J Aぎふアスパラ塾」の開塾式を行った。塾生をはじめJ Aぎふ職員、講師を務める普及指導員ら合わせて20人が出席した。

同塾では、アスパラガスの生産を志す塾生が、栽培の基本技術の習得、ハウスの設置、管理作業の実習を行うなど、年間6回程度のカリキュラムでアスパラガスについて学ぶ計画である。今年度は14人の塾生が入塾した。



【開塾式の様子】

主要農作物の生産振興

水稻

(早生品種の収穫) (岐阜市・本巣市・山県市)

8月下旬の特別栽培米ミルキーQueenを皮切りに、コシヒカリ、ひとめぼれの順に米の収穫が進んだ。収穫時期は平年並みであったが、コシヒカリは収穫直前に台風が接近したことから倒伏したほ場がやや目立った。

農業普及課では、ほ場巡回を行って登熟状況を調査し、J Aや生産者に対して適期収穫の啓発を実施するなどの支援を実施している。

いちご

(平成23年度いちご新規就農者順調に定植完了)

今年度のいちご新規就農者3名は、育苗管理に苦労しながらも定植作業を完了させた。昨年に引き続き今夏も高温で推移したため育苗管理は難しく、若干の根腐れや病害が発生した。しかし、苗不足になることはなく本ぼの定植作業は終了した。

今後は、年間生産額100万円を目標に管理を進める新規就農者に対して、農業普及課では栽培管理について指導を行っていく。

にんじん

(冬にんじん大雨被害)

8月23日未明のゲリラ豪雨(各務原市消防所データで時間雨量71mm)により、播種直後のにんじん畑の表土が流出するなど被害を受けた。

8月29日ににんじん部会、各務原市役所農政課、J Aぎふ、岐阜農林事務所で行った現地確認を実施した。その結果、市役所の確定報告において被害減収量331t、減収金額30,793千円(まき直し含む場合31,447千円)となった。今後、栽培管理指導を行っていく。

タマネギ

(23年産たまねぎ栽培開始)

9月8日頃から早生品種の播種が始まっている。

アグリ石神が糸貫玉葱振興会に参加し、極早生品種の青切出荷および、晩生品種の加工向け出荷を行うこととなった。

岐阜市園芸振興会では早生品種「浜笑」「浜の宝」品種試験を行うため、調査等、支援を行う。

ブロッコリー

(定植作業完了)

J Aぎふブロッコリー生産連絡協議会では9月1日から各地で定植作業が行われており、農業普及課では、定植前後の管理について指導している。

今年は、2条植移植機の追加導入され、作業の効率が向上し、栽培面積が拡大された。そのため、より多くの苗が必要となったが、台風12号や日照不足等天候不順の影響で苗の確保に苦労した。



【定植の様子】

また、協議会と農業普及課では、1月出荷に向けた低温肥大性のある品種の探索試験ほを設けた。試験終了後に結果について検討を行い、次年度導入品種を選定する予定である。

かき

今年の柿の階級予測！

岐阜県柿生産販売会議が9月7日に開催され、今年度の柿の販売に向けて方針が定められた。その中で農業普及課からは、果実肥大予測について情報提供した。果実肥大予測は、過去の肥大データを基に今後の気象状況別に推測している。この予測を今後の販売に活かせるよう、農業普及課では、更に精度を高めていく予定である。

担い手の育成・確保

集落営農組織・営農組合

白山能郷の郷営農システム研究委員会

コシヒカリの収穫時期を迎え、機械の共同利用へ向けた取組の一つとして、コンバイン（4条）のデモ機実演が行われた。約1haの収穫作業を行った結果、既存コンバイン（2条）に比べ作業効率が良く、参加した農業者も関心が高かった。

今後、費用対効果などを試算し、集落営農サポーターと研究委員会へ機械の共同利用等に向けた提案を行う。

地域の動き等

系柿振興会発足（本巣市）

本巣市の系貫柿振興会と真正柿振興会の合併が8月23日の合同役員会で合意され、9月9日の地区役員総会にて正式に決定された。また、振興会名は系柿振興会として、委員長には加藤泰一氏（旧系貫委員長）が就任した。会員数505、栽培面積約200haの県内一の振興会となった。また、新系貫選果場の竣工式が9月29日に挙行され、「早秋」の共選が10月初旬から始まる。

岐阜地域農業担い手情報交換会を開催

9月7日に岐阜地域農業担い手組織と新規就農者等とのネットワークづくりを目的に庁舎大会議室において情報交換会を開催した。

当日は、担い手4組織と新規就農者・研修生、農林事務所等関係者60名の参加があり、「感動を共感できる仲間づくりを目指して」と題し、可茂地区指導農業士竹川初美さんの講演の他、新規就農者及び研修生の紹介、新規就農者3人による事例発表が行われた。



【新規就農者事例発表の様子】

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成 23 年 9 月 30 日現在

今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業（ブロッコリー）

直播栽培実証圃の経過

農業普及課では、育苗の省力化を図るために、直播栽培実証圃を設置している。8月19日に輪之内町において、露地ではシーダーテープ、マルチ区ではスキップシーダーにより播種した。作業時間はシーダーテープに対しスキップシーダーでは約2倍の時間がかかり、マルチ区では手作業の播種の方が早いと思われた。発芽率はマルチで約90%、露地は約50%であった。

主要農作物の生産振興

大豆

生育状況

小麦の収穫が遅れたことにより、大豆播種の開始が遅れたが、梅雨明けが早く、は種作業は順調に進んだ。しかし、播種期間中に一時強い降雨があったことから、発芽ムラや生育ムラが散見されている。生育についてもやや抑制されたが、ハスモンヨトウ等の発生も目立つほどではなく、現在、粒肥大期に入っており、平年並みの作柄を期待している。

農業普及課では、帰化アサガオ類やホオズキ類等の雑草対策の課題を解決するため、農薬展示ほの設置やJAとの連携での実証試験を行っている。

トマト

栽培研究会の開催

海津トマト部会では9月5日に全員栽培研究会を開催した。

農業普及課からは、夏秋期の管理に加え、新たに前年の出荷実績分析や栽培履歴の正確な記帳について説明を行った。

園芸特産振興会施設部会の中央研修会

県園芸特産振興会施設部会（トマト、きゅうり）では、9月13日に中央研修会を開催し、施設園芸の環境制御についての講演会が行われた。日本でもトマトで土耕で30t以上、養液で40t以上の収量が得られた事例に対し、生産者の関心が高まった。

農業普及課としては温湿度や日照、CO₂の測定機器や、CO₂発生装置の購入を考えている生産者があり、それらについて今後対応を検討する。

きゅうり

抑制栽培の出荷始まる

23年産抑制栽培の出荷が9月12日から始まった。出荷開始は平年並みであるが、全体としては播種時期が早まっているので、9月の出荷は昨年を上回ることが予想される。

9月7日に促成栽培、9月15日に晩抑制栽培の巡回及び研究会を行い、黄化えそ病対策や今後の栽培管理等の指導を行った。

えだまめ、なす

台風の影響で出荷量減少

農業普及課からは、台風に対する事前事後の対策資料を提供しているが、度重なる台風の影響で、えだまめは、倒伏や斑点細菌病の発生や、莢への「そぶ症状」が多発し、9月に入って出荷量が減少し、品質も低下している。

なすにおいてはすれ果の発生により、出荷できない障害果が発生し、全体的に出荷が大きく落ちこみ、1ヶ月ほどは回復できない見込みである。

なし

晩生品種梨の収穫始まる

幸水の生育の収穫作業は9月上旬頃まで行われた。豊水は9月1日、あきづきは9月10日から収穫が始まった。台風の影響は大きな被害には至らなかった。

白紋羽病が発生したほ場で、熱水温湯消毒の希望があり実証試験を行う予定である。

バラ

盛夏時のほ場巡回実施

農業普及課では、土壌養液の分析診断を月に1回で行っているおり、あわせて圃場巡回を実施している。8月下旬の圃場巡回では、夏は生育が早いこともあり手が回っていない圃場も見受けられる。9月はプライダル等需要期の始まりであり、高値が期待されている。



【圃場巡回風景】

担い手の育成・確保

営農組合

法人化の日程決定

垂井町の集落営農組織について、出資金がほぼ予定額が集まり、9月29日に登記した。また、これに伴う設立総会は10月29日に開催される。

農業婦人クラブ・加工組織

本場の朝市販売状況を視察

西美濃直売市、元気ハツラツ市や各市町の直売市に野菜や農産加工品を出品販売をしている農業婦人クラブ員が、9月6日に高山の宮川朝市を視察研修した。

農業普及課は視察のチェック項目を19項目挙げ、品揃え、陳列方法、対面販売の手法、主催者の心構え等々についての視点を確認するよう支援を行った。

地域の動き等

農産物直売所

農産物直売所の運営アドバイス

県の朝市直売所店づくりアドバイザー派遣事業を活用して、農林水産省の「地産地消の仕事人」にも認定されているオフィス・シンセニアン代表による現地でのアドバイスが行われた。8月28日に垂井町の半兵衛の里、29日に大垣市のファーマーズマーケットで実施された。農業普及課からも直売所の状況説明等を行った。

食農体験

小学生のブロッコリー定植体験開催

J Aにしみのブロッコリー生産協議会大垣部会の食農教育活動として、9月26日に青墓小3年生約80名が、ブロッコリーの定植作業を行った。農業普及課、営農組合員、営農アドバイザーが定植の指導をした。収穫作業の体験も行う予定である。

鳥獣害対策

集落ぐるみの獣害対策視察

9月8日に養老果樹振興会、9月12日には南濃里山栽培研究会が、獣害対策を学ぶために、郡上市和良町の集落ぐるみでの獣害対策を視察した。まず最初に宮地集落協定代表の活動内容や鳥獣害対策監による県内の獣害の状況の説明を聞いた。その後、猪鹿無猿柵の設置場所を案内してもらい、猿追い花火鉄砲を実演した。柵設置や猿追いも集落ぐるみでやらないと意味が無いこと等を学んだ。



【郡上市視察風景】

南濃柿園付近で猿集団追い払い

海津市南濃町の柿園が集中している地区で、20~30頭の群れ猿による、柿の食害が増えている。そのため、近くの柿栽培者や一般住民など複数で花火鉄砲で追い払い活動している。普及指導員も巡回中に猿と遭遇した時は、追い払い活動を実践している。

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業（かぼちゃ）

かぼちゃを一斉収穫、出荷・販売始まる

かぼちゃの新産地づくりを目標に、今年度から計90aの水田で、品種、栽培体系、省力栽培の実証ほを設置し、栽培管理の検討を進めている。

各法人とも9月上旬を一斉収穫としたため、収穫前の台風やその後の降雨により、一部の法人では病害が発生し、収量に大きく影響した。

今後、農業普及課では、水田農業経営におけるかぼちゃ作りについて課題を明確にし、販売状況等も考慮しながら関係者と検討していく予定である。



【一斉収穫(9/8)】

主要農作物の生産振興

水稻

早植えハツシモの収穫開始、品質は良好

ひとめぼれやコシヒカリなどの早生品種の収穫が終了した。収量は平年並であったが、登熟期の高温の影響により白未熟粒の発生による品質低下が目立った。

また、9月下旬から早植えハツシモの収穫が始まっている。出穂後の高温の影響が心配されたが、白未熟粒の発生は少なく品質は良好である。

採種ほ（水稻）

生産者研修会で生育状況を確認

9月15日に大野町米麦採種ほ生産組合の研修会を実施し、生産者ごとのほ場を巡回しながら、今年の生育状況を確認した。

また、異種株の抜き取りや収穫までの水管理、適期収穫など、良質種子生産に向けた今後の管理について意識統一を図った。

糊熟期ほ場審査を実施

9月28日にハツシモ採種ほ860aで糊熟期ほ場審査を実施した。台風12号の影響により不稔穂や籾枯細菌病の発生が見られたが、症状は軽く、他の病害や雑草の発生も少なかったため、圃場審査の結果、全圃場とも合格とした。

大豆

大豆病害虫防除情報を発信

今年大豆は8月下旬から9月中旬にかけて開花期を迎えた圃場が多い。農業普及課では、開花終期から若莢期にかけて、紫斑病やハスモンヨトウ、カムムシ類の防除を実施するように、防除情報を発信した。防除情報作成にあたり、フェロモントラップによるハスモンヨトウの発生活動調査結果を活用した。

柿

県内トップを切って、西村早生の共選始まる

9月8日、大野町かき振興会では西村早生の目揃会が実施された。農業普及課では、今年初めてとなる柿の目揃えに参集した生産者及び関係者140人に対して、選果方法や大きさ、色、形等の選別方法について説明し意識統一を図った。

翌9月9日は、J A いび川柿選果場にて初共選が実施され、主に京浜方面に出荷された。今年甘果率が3～4割程度と平年に比べて低く、高温による障害（生理落果）の発生もあったが、出荷された柿の糖度は高く食味は良好となった。



いちご

花芽検鏡及び定植前研修会の開催

農業普及課では、9月9日～16日にいちごの花芽検鏡を実施した。また、大野町苺生産組合（9/15）、揖斐川いちご生産組合（9/16）の定植前研修会がそれぞれ開催され、花芽検鏡の結果

と当面の管理について研修した。今年の花芽分化は昨年より1週間程度早かったが、高温のため炭そ病が多く、苗が不足したため苗の調整を支援した。

茶

茶青空教室でGAP講習

本年は放射性物質の問題や発生が拡大するチャトゲコナジラミの防除対策の他、現地からのGAP推進に関わる講習会の要望があり、9月9日「第3回青空教室」を支援した。

放射性セシウム暫定許容値の設定にともなう肥料の取り扱いについては、系統堆肥・肥料の製造・保管場所、原料産地など詳細調査が行われ、全面的に販売自粛が解除された。組合での規制内容について検討を行うとともに、農業普及課からは、組合員への周知、記帳の徹底を啓発した。

GAPは「良い農業の実践」、圃場並びに加工場の作業場面から「良くないこと(悪いこと)」を探してもらい、なぜ良くないのか、具体的にどう改善したら良いのかを講習した。生産組合では生産者の高齢化や代替わり、熟練オペレーターの減少等にもなう危険回避や、品質・生産の維持が課題となっている中で、組合側からは、課題解決への取組に向けた規範作りの支援を求める声もあり、今後の取り組みが期待される。

フランネルフラワー(切り花)

長期出荷をめざして 調査ほの設置

揖斐管内では、2名の生産者が切り花フランネルに取り組んでいる。夏に定植をした後、冬を越し春先に出荷するが、冬期の需要もあるため、エンジェルスターを用いて調査ほを設置し、冬~春にかけての長期出荷の可能性について検討することにしている。2回目の調査ほ定植および調査を9月7日に実施。今後は定期的に生育調査等を実施し、生産者へ情報提供する予定である。

よもぎ

優良系統選抜のための第2回収穫調査実施

9月26日にNPO法人山菜の里いびが揖斐川町春日地区で育成しているよもぎの優良系統選抜ほ場において、本年第2回目の収穫を行った。

今後、産業技術センター食品研究部が行う機能性成分(クロロゲン酸等)の分析結果や、系統別の収量データ等により優良株の選抜を行い栽培の拡大を図る予定である。



【新芽の収穫】

担い手の育成・確保

集落営農組織

集落の意向調査を実施

集落営農担い手発掘サポート事業を実施している揖斐川町坂内地区において、住民の意向把握のため、集落営農サポーターを主体にアンケート調査が実施された。今後、集計を担う岐阜大学と連携して内容を分析し、集落の方向を提案していくこととする。

揖斐地区農業婦人クラブ

リーダー研修会を開催

9月27日、揖斐地区農業婦人クラブのリーダー研修会を実施した。関市「ふるさと農園美の関」でのジャム作り体験の他、アグリ・エンジヨイネット岐阜の杉山会長が立ち上げた「農家レストランつるや」を訪れ、立ち上げまでの経緯や6次産業への取り組みなどについて説明を受けた後、つるむらさきを使った料理を頂きながら交流を図った。



中濃農林事務所農業普及課普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

活力ある新産地づくり農産物（さといも）

円空さといもの生産状況

9月6日～15日まで、降水量が0mmであったこともあり、一部で葉焼けが見られる。

現在、葉柄長は110～120cmとなっており、葉も大きいことから、昨年より収量が多くなると見込まれる。



【9月中旬のさといもの様子】

円空さといも生産振興会議

9月6日と20日に、円空さといも生産振興会議を開催した。会議では、円空さといもの販売方法、新規栽培者の勧誘等について検討している。

新規栽培者については、募集チラシの作成・配布等により勧誘する方向で話を進めている。



【就農塾で説明する先進農家】

就農塾（さといも）

8月30日の就農塾において、さといもの先進農家のほ場を視察した。先進農家の圃場では、ほとんど雑草が生えておらず、塾生は、管理が行き届いていることに感心していた。

食農教育

8月31日に、岐阜大学地域科学部1年生19名に対し、さといもの栽培管理に関する社会学習の支援を行い、追肥作業、除草作業を体験してもらった。

暑い中での作業は大変だったが、農業者の苦勞に触れる良い機会となった。

また、9月15日には、瀬尻小3年生68名に対し、さといもについて授業を行った。飛騨美濃特産名人の杉山守冉さんから、円空さといもの栽培について話があり、小学生からは、「さといもの葉はなぜハート型になるのですか」「円空さといもはどこで売られていますか」等、たくさんの質問があった。11月には収穫を行い、そのさといもを使って「円空さといもパーティー」が開催される予定である。



【さといもの追肥を行う大学生】

主要農作物の生産振興

大豆

生育は概ね順調

台風15号の影響でやや倒伏したほ場が見られるものの、生育は順調である。現在、莢の肥大期にあり、生育状況を随時確認している。



【台風15号通過後の大豆ほ場】

水稻

収穫は順調

早生品種（コシヒカリなど）は収穫がほぼ終わった。今年は、登熟障害が少なく、品質も昨年を上回っている。中生品種（あさひの夢、みのにしきなど）の収穫は、昨年に比べやや遅れており、農業普及課では、積算温度情報を提供しながら、適期収穫による良質米生産を支援している。

いちご

いちごの花芽検鏡を実施

農業 9月 12、14、16、20 日と、いちご苗の花芽検鏡を行った。濃姫については、昨年と比べ、3日早い人から 10日早い人まで、平均すると 8日早い花芽分化となっていた。花芽検鏡の結果を踏まえて、適期定植、定植前後の管理について指導を行なった。

なす

なすの出荷量は減少傾向

8月は順調な出荷が続き、ほぼ昨年並みの生産量となっていたが、9月 3、4日の台風 12号の風害により、スレ果が多発し、出荷量の減少とともに下級品比率が高くなった。

9月半ば過ぎには、予想より早く出荷が回復し、9月 21日の台風 15号の被害は軽微であったが、その後の低温推移により、全体として出荷量は減少傾向にある。農業普及課では、10月いっぱい生産が継続できるよう、基本技術の励行について、引き続き支援していく。

担い手の育成・確保

女性農業経営アドバイザー

中濃ブロックアドバイザー視察研修会・全体会議

9月 22日、中濃ブロック女性農業経営アドバイザーが視察研修会及び全体会議を開催した。可茂地区の花き生産農家から経営概要を聞いた後、温室内の見学を行うとともに、山之上果実農協の視察も行った。

全体会議においては、美濃市の代表者から、今後の活動計画や県事業推進検討会議の報告などがあり、周知等について支援を行った。



【花き生産状況を聞くアドバイザー】

地域の動き等

6次産業化志向農家

6次産業化支援セミナー in 中濃を開催

9月 29日、農業者の 6次産業化への取り組みを支援し、収益力向上をめざすことを目的にセミナーを開催し、農業者 30名を含む総勢 70名が参加した。国や県の支援施策を説明するとともに、「消費者の求める売れる商品づくりとは」と題して、ネット販売を手がける(株)山高商事社長から講演をいただいた。

講演終了後は、農業者が個別に 6次産業化サポートセンターのプランナー等と相談、意見交換を行った。

今後も、経営の多角化を計画する農業者に対し、支援を行っていく。



【6次産業化を相談する農業者】

採種事業

ほ場審査の実施

管内では、ハツシモ、あさひの夢等の水稻種子を約 67ha で生産しており、中でもハツシモは、県全体の 60%を占めている。

本年は、8月上～下旬に出穂期審査、8月下旬～9月下旬に糊熟期審査を、JA及び採種組合役員と連携して実施した。生育は良好で、高品質な種子が生産できる見込みである。



【ほ場審査の様子】

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

かん水機材の活用

ひるがのファイト倶楽部では、干ばつになる時期にかん水機材を活用しひるがの高原にんじんの品質向上に取り組んでいる。

農業普及課では、にんじんはだいこんに次ぐ新たな品目として期待しており、産地育成支援を行っている。



【かん水機材の活用】

主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（にんじん）

ミックスジュース試作

ひるがのファイト倶楽部では、秋収穫したにんじんに飛騨地域で栽培されたリンゴを加えてミックスジュースの試作品を高山市の寺田農園へ依頼し製造した。

にんじんとリンゴの配合割合や製造条件で変更した4パターンのミックスジュースの試飲を郡上農林事務所職員で行い、商品開発の助言をした。

秋収穫したにんじんをベースにしたミックスジュースは新たなブランド名で製造販売していく見込みである。



【試作したミックスジュース】

だいこん

消費宣伝

ひるがの高原だいこん生産出荷組合婦人部では9月17日（土）にJAめぐみのとれた広場関店においてひるがの高原だいこん消費宣伝活動を行った。

台風の影響で野菜価格は高騰していたが、産地直送で鮮度も良くお値打ちな価格設定を行っていたひるがの高原だいこんは飛ぶように売れた。

また、だいこんレシピのちらしを配布した。



【だいこん消費宣伝】

トマト

地域別研修会

9月6日～8日にかけて、夏秋トマトの地域別研修会を実施した。株の状態を見ながら、摘心後に行わなければならない肥培管理についての研修会を行った。



【地域研修会】

花き

フランネルフラワー切花試験

農業普及課では、農業技術センターと農業経営課の協力を得て、県育成品種であるフランネルフラワー「エンジェルスター」の切花実証ほを設置し、生育調査および品質調査等を行っている。四季咲き性の「エンジェルスター」は、7月下旬から秋にかけて長期間出荷が可能であることが確認された。順次、市場への試験販売も行い、市場評価もまずまずの手



【長期間切花出荷が可能な「エンジェルスター」】

ごたえを感じている。

担い手の育成・確保

女性農業経営アドバイザー

中濃ブロック視察研修会開催

9月22日、中濃ブロックGLAMA視察研修会が開催された。郡上地区からは4名のアドバイザーが出席し、可茂地区の花き生産現場と果樹農協を視察した。

また、中濃ブロック全体会議も併せて開催し、中濃ブロック活動計画とGLAMA事業計画の確認等を行った。

農業普及課は、企画、実施の支援を行った。



【花きハウス視察】

地域の動き等

郡上市高鷲地域

農産加工品販売

ひるがのサービスエリア内において高鷲町内で栽培製造された農産加工品が店内で販売されている。

マスコミでのPRもあり、販売数量・売り上げは伸びているが新たな商品開発で儲かる農産加工品の開発と商品化を農業普及課としても農業者と連携して支援していく見込みである。

農業者も「ひるがの高原」という地域の名称がブランドであると認識し、付加価値のある農産物の生産と農産加工品の商品開発に意欲を高めており、儲かる農業、農業観光を切り口にした地域振興を郡上農林事務所職員が一丸となり支援していく。



【春まちにんじんジュース】



【にんじんまんじゅう】

中濃地域ぎふクリーン農業フェア

9月17日(土)にめぐみの農協直売所「とれった広場可児店」にて、中濃地域ぎふクリーン農業フェアを実施した。

中濃地域でぎふクリーン農業に登録している農産物と生産者をパネル展示及びアンケート調査を通して、ぎふクリーン農業の認知向上を図った。



【中濃地域ぎふクリーン農業フェア】

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

集落営農担い手発掘サポート事業

「室山集落を考える会」G・T活動

白川町下佐見室山集落では、9月7～8日に岐阜大学学生14名の参加を得てグリーン・ツーリズム（G・T）活動を行った。集落住民（全6戸）と集落営農サポーターが主体的に準備や取り組みを進め、7日は棚田の稲刈り・はさ掛け体験及び集落住民と学生との交流会、8日は集落の魅力発見活動及び2日間のまとめが行われた。当該活動は、集落にとって初の試みであり、各活動に積極的に取り組む学生の姿に、集落住民も気持ち良く、に対応する様子が伺えた。



【学生による稲刈り・はさ掛け体験】

主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

坂祝町青ねぎ生産部会定例会

9月14日に坂祝町青ねぎ生産部会の定例会が開催され、農業普及課が行った農薬展示ほの実証結果やセル苗の試験生産の取り組みについて、結果報告を行った。さらに、農業普及課から先進地情報として青ねぎの生産・加工を行っている呉市の栽培・出荷情報等について報告した。

本年は全国的にネギが豊作で夏場にも単価は上がりず厳しい採算割れの状況が続いているが、「耐え続けるしかない」などの意見が出た。

大豆

着莢期～子実肥大期

本年度は約87haの栽培が行われており、9月中旬には中山間地域の「タチナガハ」（23ha）は子実肥大期を、平坦地の「フクユタカ」は着莢期を迎えており、生育は概ね順調である。

カメムシ類発生状況

近年「タチナガハ」の青立ちによる収量・品質の不安定が問題となっている。JAからの相談もあり、農業普及課では、9月1日に農業経営課技術支援担当や病害虫防除所と連携して、青立ちを助長するとされるカメムシ類の発生状況を確認した。白川町では開花後の8月上旬と下旬の2回、ラジコンヘリにより防除を実施しており、その発生は少なかった。

トマト **（美濃白川夏秋トマト部会が班別現地研修会を実施**

班別現地研修会を8月31日、9月1、2日に実施した。内容は、各地区で取り組む新技術の導入状況について情報交換を行うとともに、芯止め期以降の栽培管理についての研修とした。

なお、平成23年の出荷実績は、9月19日現在の出荷量で平成22年に比べ130.6%となっている。

9月3日には、美濃白川夏秋トマト部会女性部による販売促進PR活動の支援を行った（各務原市）。

いちご **頂花房分化状況について**

農業普及課は、初期収量の安定化を目指し、花芽分化後の定植を徹底するため、9月7、9、12、14及び16日に花芽検鏡を実施した。窒素成分の中断を開始した8月中旬以降も高温で推移していたが、花芽分化は平年並から数日遅れにとどまっている。高設栽



【定例会の様子】



【現地研修会の様子】



【堂上蜂屋柿の生育調査】

培では8月末までに定植し、9月13～16日に養分の供給を開始した。土耕栽培では花芽分化が確認された一部の生産者は15日から定植を開始したが、16日の顕鏡で未分化だった生産者は、17日から定植を開始した。

柿 **生育順調**

9月8日に堂上蜂屋柿の生育調査を行った。その生育は順調で、着果状況も良好であり、果実も例年よりもやや大きく、果形も良好である。

栗 **熟期遅延**

栗の収穫が本格的になっているが、熟期は1週間以上遅れている。開花時期が好天に恵まれたこともあり、作柄は良好でしわ果も少ない。9月上旬に可児栗振興会が目揃えを行い、出荷基準の統一と毎日収穫・即時出荷を進めており、農業普及課も支援を行っている。

茶 **茶の生育状況について**

8月は適度な降雨があり芽の生育は良い。幼木園では夏期の干害の影響もなく茶苗の枯死は前年より少ない。今年度茶園造成を予定している園主は、茶苗定植時に敷くワラの確保に努めている。



【目揃え会で出荷基準を統一(栗)】

担い手の育成・確保

集落営農組織 **「東黒川営農組合」設立総会**

9月4日、白川町奥新田公民館において、町内で10組織目となる集落営農組合の設立総会が開催された。黒川地区の中新田・奥新田では、これまでも作業受託・農業機械の効率的利用を行っていたが、今後の地域の営農維持に向けて組合員30名で営農組合を設立した。総会には、町長・地元選出県議会議員等が出席し、中山間地域農業の維持・活性化に向けた期待の大きさをうかがわせた。農業普及課として、今後とも町・JAと連携して支援を継続する。



【設立総会の様子】

地域の動き等

可児地域

大豆のお菓子「可児っ子大豆 カリッコ」商品発表会

(有)土利夢ファーム可児は、可児市産大豆(フクユタカ)を使用した特産品として豆菓子の製造・販売について検討を重ね、このたび、商品名「可児っ子大豆 カリッコ」を開発した。9月10日からJA直売所(とれっただひろば可児店)や道の駅等での販売開始に先立ち、9月2日にJAめぐみの可児本部において、地域の農業者や行政・関係機関等約50名を集め、商品発表会を開催した。農業普及課は今後とも、大豆生産や商品販売面において支援を継続する。

全域

中濃圏域ぎふクリーン農業フェア

9月17日に「とれっただひろば可児店」にて、関係農業普及課が中濃圏域ぎふクリーン農業フェアを開催した。ぎふクリーン農業や管内の取り組み生産者を消費者に紹介するため、パネル展示・アンケート調査・試供品配布・美濃白川トマトの産直販売を実施した。当日は雨天でありながらも、客足は多く、アンケート調査は午前中に予定の200名を完了し、トマトは用意した90パックの販売を完了した。特にトマトの試食販売は、農家自らが来場者に試食を勧めPRしたこともあり、おいしいと好評であった。



【開発商品「カリッコ」の披露】



【中濃圏域ぎふクリーン農業フェアで活躍する女性農業者等】

東濃農林事務所の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

(第2回ブロッコリー塾開講)

東濃管内では、地産地消を基本とするブロッコリーのミニ産地づくりに取り組んでいる。この中にあり瑞浪市では、9月6日に第2回ブロッコリー塾が開催された。当日は、塾生19名が出席し、農業普及課が講義を、塾実証ほ場担当農業者が実技指導をそれぞれ担当し、ブロッコリーの定植、追肥、防虫ネット設置等を研修した。

栽培経験のない農家も多数存在するが、自分自身で育苗した苗を定植し、栽培管理を行うことでブロッコリー栽培が拡大し、直売所等で東濃産ブロッコリーが販売されることを期待したい。



【定植作業の様子】

主要農作物の生産振興

水稻

(収量は平年並み)

管内の水稻は、主要品種では、あきたこまち、ひとめぼれ、コシヒカリの収穫がほぼ終了し、あさひの夢の収穫が始まったところである。

農業普及課では、9月14日に基準田の収量調査を行った。調査ほ場では、522kg/10aとまずまずの収量であった。管内のライスセンターでも、平年並みの収量となっており、作況は平年並みの見込みである。

大豆

(適期防除を支援)

主要品種であるフクユタカは、粒肥大期を迎えている。8月30日と9月5日に紫斑病とカメムシを対象とした防除が実施され、現在は被害の程度も少なく順調である。台風15号により一部で土砂が流入したが、実需者との契約数量は確保できる見込みである。

いちご

(いよいよスタート)

多治見市では、9月上旬から開始された定植作業がほぼ終了している。先般の台風15号に伴う豪雨により、施設内が一部冠水し、その対応に追われていたが、現在では作業も落ち着き、生育も順調である。また一方、昨年度産終盤のアザミウマ多発に対する対策を徹底するため、農業普及課では継続して、その発生消長について、調査を行うこととしている。

ブロッコリー

(台風被害受ける)

多治見市では、台風15号に伴う豪雨(最大時間雨量68mm)により、隣接する水路や水田がオーバーフローし、ブロッコリー畑が冠水した。

その後、水は引いたが、葉の損傷やしおれ等が見られた。農業普及課では、早急な対処を呼び掛け、生産者とともに樹勢の回復を待っている。

担い手の育成・確保

農産加工組織

(起業に向けた組織化支援)

瑞浪市内で青空市を運営する「みずなみみんなの広場」の呼び掛けにより集まった「農産加工研究会」が、来年6月に瑞浪市内に開設予定の農産物直売所への出荷を目指し、新たな農産加工組織づくりに取り組んでいる。

同研究会は、地元の農産物を活用した加工品づくりについて、昨年からは毎月一回の勉強会を重ねてきた。また同研究会は、農産加工施設の設置も計画しており、自分たちの資金力に見合った施設づくりを目指している。会員全員で、中古物件等について広く情報収集するとともに、JAとうとをはじめ関係機関と意見交換を続ける中で、このほどようやく施設の目処が立ったところである。

農業普及課では、自ら資金を確保し、設計し、活動する研究会に対し、施設の設計、組織づくりや関係機関との連携等について支援している。

地域の動き等

F B C

(地方審査)

9月5日、恵那・東濃管内ではF B C地方審査を実施した。秋花壇には7校が参加し、花壇設計、生育状況、花壇管理と効果、教育上の利用、校外美化への影響の5項目について審査した。

審査の結果、土岐市鶴里小学校が中央審査に推薦された。同校は、中央審査でも高い評価を受け、県知事賞を受賞された。

参加校からは、児童の減少により年々負担が増加している、との声も聞かれているが、質の高い花壇と夏休みも頑張って管理した児童らのプレゼンテーションに、大きな教育効果が伺われる。



【知事賞に輝いた鶴里小学校花壇】

恵那農林事務所の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

夏秋トマト

夏秋トマト産地後半出荷量の安定をめざした取り組みの検証～技術部会の活動～

東美濃夏秋トマト生産協議会技術部会の圃場巡回を9月30日に開催した。技術部会員をはじめ、JA営農担当者等17名の出席があり、各地域の実証圃および中山間農研中津川支所を巡回し、実証結果を元に技術の検証を行った。

今年には出荷期間後半の出荷量を安定させることを目的に、晩期作型、中段での摘花房、遮光資材の3項目を重点事項として取り組んだ。各ほ場では、技術部会員が実証概要とその効果・問題点について説明し、意見交換を行った。遮光資材や摘花房では効果も確認された一方で、取り組み時期や方法については改善の余地があるものもあった。農業普及課では、今後技術部会に対し調査結果のとりまとめと、効果の確認されたものについての地域での導入拡大を中心に支援していく。



【意見交換をおこなう参加者】

主要農作物の生産振興

活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

新企画実現！焼きぼろたんを1,000人が味わう～ENAみのじのみのり祭2011にて～

恵那市の秋を彩る食の祭典「ENAみのじのみのり祭2011」が9月25日に開催され、祭会場にて来場客がU字溝で作った炭火台で焼き松茸・クリを楽しむイベントが行われた。

昨年までは、焼き松茸のみであったが、今年はクリ（ぼろたん2粒）と紅葉煎餅を加えた秋の食材1,000セットが販売され、販売開始と同時に長蛇の列ができ早々に完売となった。

来場客が、焼き網に松茸やぼろたんを広げると、松茸の良い香りが漂い、渋皮がむける不思議なクリにも驚きながら、旬の味を楽しんでいた。

農業普及課が活動支援する東美濃ぼろたん研究会では、今年産ぼろたん300kgを出荷見込みで、今後もJAを通じ地域内外のイベントや菓子・料理業者等と連携し様々な販売を試行予定。今回の祭でもkg単価1,500円で計50kgの高値販売が実現した。



【秋の味覚焼きを楽しむ来場者たち】

きねふりもち

地域の特長を活かした地産地消もち米の品質確保を目指して～中山間農研中津川支所と連携して適期刈取を指導～

中津川市内の4農業法人では、中山間農業研究所中津川支所で育成された糯品種「きねふりもち」を13haで作付し、地産地消をねらいJA東美濃との契約生産を行っている。この品種は餅への加工性が良い反面、刈遅れによる胴割れが起こりやすい特徴があり、適期収穫をこれまで以上に徹底する必要がある。農業普及課では、単収向上と品質の確保を目指して生産法人ごとに生育調査ほを設けて栽培管理指導を行ってきた。それに加え収穫期を迎えて関係機関と共に作付水田の巡回を行い刈取適期日を予測し農業法人側に情報提供している。その結果、概ね適期収穫がなされ、今年には胴割れの少ない良質な「きねふりもち」を生産する事ができた。



【きねふりもちの刈取適期調査の様相】

農業の6次産業化

恵那市の新特産品「恵那たまご」好評発売中

県の農業6次産業化促進支援事業を導入して商品化を進めていた「恵那たまご」が完成し、9月16日から販売を開始した。

「恵那たまご」は、農業普及課の提案により安藤養鶏場と恵那農業高校の3者が連携して開発した卵のみそ漬け。管内の営農組合が生産した飼料米を餌として活用した純国産鶏「もみじ」の卵を、恵那農業高校の「農高みそ」をブレンドしたみそ床に漬けこんで商品化した。

恵那駅前の「えなてらす」やイベント等で販売を開始したが、すぐに売り切れる人気ぶりで、恵那市の新しい特産品として期待が高まっている。



【写真 大人気の「恵那たまご」えなてらすでの販売の様子】

担い手の育成・確保

農業大学校との連携

農大生の先進農家等派遣学習の支援 ～先進農家から技術や考え方を学ぶ～

農業大学校1年生の先進農家等派遣学習が、9月12日から17日までの6日間で実施され、当管内では2戸のいちご生産者と1戸のきゅうり生産者において、各1名ずつの計3名の学生が生産出荷の現場を学んだ。9月15日には、農業大学校職員と農業普及課担当者が各研修先を訪ね、学生の研修状況を確認するとともに、受け入れ先生産者を交えて学生に対し、今後の学習についての助言を行った。

生産者からは、様々な品目あるいは栽培方法を学ぶことや、仕事量をこなす作業スピードの重要性などが伝えられ、生業として農産物生産に取り組む楽しさと厳しさが伝えられた。一方、農業普及課からは、就農地域の気象条件や出荷形態など経営品目選定にあたっての基本事項について助言を行った。

学生らは1年生の後半を迎えるが、本研修を機会に知り合った生産者や農業普及課も活用しながら情報収集に努め、就農に向けてのイメージづくりに取り組む様子であった。



【農大生の研修を行う生産者と普及指導員】

地域の動き等

恵那農林事務所内研修

普及活動をPR！農林事務所職員も勉強します～所内研修で飼料用稲を学ぶ～

恵那農林事務所では、昨年より課を横断しての所内研修を年間数回実施している。9月15日に実施した研修では、恵那市飯地営農組合が取り組んでいる飼料用稲栽培について研修し、所長、副所長はじめ総務課、農業振興課、農地整備課等の参加職員に対して農業普及課が普及活動の状況について説明を行った。

栽培品種、乳苗移植、省力・低コスト化、農業者戸別所得補償制度、新規需要米のメリットと食料自給率等について解説し、普段は栽培に縁のない職員も水田農業に興味を持ったようであった。



【農林事務所の総合力アップ！～他課の仕事も勉強します～】

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援事業「龍の瞳」

龍の瞳採取は審査を実施

下呂地域では「龍の瞳」の生産が年々増加しており、農業普及課の支援のもと地域独自で種子生産を行っている。

種子を生産する採種ほの審査は、8月9日他の出穂期に続き、糊熟期の9月7日に実施され、農業普及課職員2名と生産者の立ち会いのもと、異品種混入の有無や病害虫の発生状況等について審査を行った。

本年は出穂期以降、降水量が平年に比べ多く、穂いもち等の病害の発生が多かったが、採種ほは適正に管理されており、大きな問題も無かった。

農業普及課としては、ほ場審査、生産物審査を行い、優良種子生産を支援していく。

龍の瞳現地検討会開催

下呂地域では、龍の瞳生産組合による適期刈り取りに向けての現地研修会が開催された。

9月14日に組合の下呂支部による研修会が開催され、関係組合員のほ場を巡回し、現在の登熟状況、品質、収穫開始時期等について意見交換が行われた。

本年は8月中旬以降、気温が低く推移しており、収穫開始も9月中下旬と昨年よりやや遅くなる見込みである。

農業普及課としては、刈り遅れによる胴割粒、早刈りによる未熟粒の発生防止について指導を徹底していく。



【採種ほ場審査（下呂市野尻）】



【現地検討会（下呂市宮地）】

主要農作物の生産振興

夏秋トマト

目揃え会開催

9月29日に益田夏秋トマト生産組合の目揃え会が開催された。台風15号通過後の気温低下による出荷量の減少などこれまでの販売の状況や出荷基準の目揃えのほか、今年品種比較をしているトマトの試食も行われた。

農業普及課からは、現在着果している果実をできるだけ多く出荷させるため、今後の栽培管理の方法について講習を行った。



【目揃え会での食味試験（下呂市萩原町）】

トルコギキョウ

トルコギキョウ品種検討会へ参加

9月9日に中山間農業研究所でトルコギキョウの来年の品種を決めるトルコギキョウ部会品種検討会が開催され、下呂地域から生産者4人が参加した。

検討会では、各種苗会社からの説明のあと、来年度に向けて人気が出そうな品種や栽培のしやすさ、収穫の時期などを踏まえながら検討した。



【新品種を検討する農家（飛騨市古川町）】

来年度の品種については、9月30日に開催のトルコギキョウ部会役員会で決定される予定である。農業普及課としては、栽培しやすくかつ単価の高い品種の選定を農家とともに考えていきたい。

担い手の育成・確保

新規就農者

就農支援資金貸付検討会開催

9月8日に下呂農林事務所で市、JA、県等の関係者及び申請者の計7人が集まり、8月に認定された認定就農者の就農試験資金の貸付申請に向けて検討会が開催された。

検討会では、申請者からの申請書の内容、添付資料、申請書の提出期限などを確認した。

今月上旬には、申請書が提出され、11月1日の事業実施に向けて各関係機関で支援していく。



【就農支援資金検討会(下呂総合庁舎)】

先進地農家派遣学習出発式開催

9月26日に農業大学校の2年生の下呂市金山町と萩原町の派遣農家宅の2か所で行った。

「先進農家派遣学習」は、岐阜県農業大学校が先進農家に学生を派遣して、実際の農業の現場での体験を通して実践的な農業経営能力を習得することを目的に毎年実施されている。

当日は農業大学校からの説明のあと、繁殖牛のいい体型を維持するために工夫していることや交配親を選ぶときの注意点等を勉強したいなど、学生の派遣学習への意気込みを語ってもらった。派遣先の農家からは、わからないことは質問すること、事故のないようす

ることなど実際の学習における注意点について話していただいた。農業普及課としても、農業大学校と連携しながら、学生が十分に学習できるように支援していく。



【意気込みを語る学生(下呂市金山町)】

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日

今月の重点活動

活力ある新産地づくり支援品目（宿儺かぼちゃ）

ぎふ伝統食文化グランプリ 1次審査通過！

9月12日、瑞穂市の市民センターにて「ぎふ伝統食文化グランプリ」（主催；県庁農産物流通課）」の1次審査が行われ、農業普及課では宿儺かぼちゃの試食やPRの支援を行った。

県内19団体が参加し、宿儺かぼちゃをはじめ6団体が1次審査を通過した。2次審査は10月10日にイオン各務原ショッピングセンターにおいて一般消費者の前で行われ、グランプリが決定される。



【1次審査プレゼンの様子】

活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

「飛騨フェア」の開催！

8月22～26日、大阪市の鶴見花き(株)にて飛騨花卉出荷組合主催による「飛騨フェア」が開催された。

飛騨黄金を始めとしたキク（33点）、トルコギキョウ（8点）、ダリア（13点）、バラ（7点）、フランネルフラワー（1点）が品種別の生け花とアレンジにより展示された。また、飛騨マムについては新しい品目であるため、説明を求める仲卸業者も多く見られた。



【「飛騨フェア」の展示の様子】

主要農作物の生産振興

飛騨トマト

丹生川トマト部会で圃場審査を実施！

9月14日、丹生川トマト部会において、圃場審査を実施した。秋以降の出荷量を確保するための管理徹底を促すことが目的である。農業普及課からは、審査員に対してGAP（生産工程管理）の取組を強化していることから、衛生的な圃場づくりという観点からも審査を実施することを説明した。

各支部から選出された13名は、どこも十分な管理がされており、終盤の出荷も期待される。また、3位までに、20歳代の女性生産者が2名入ったことも今年の特徴である。



【審査の様子（丹生川町）】

水稻

水稻収穫中！

飛騨地域の水稲は、早生品種の「ひだほまれ」、「たかやまもち」の収穫はほぼ終わり、「コシヒカリ」などの収穫作業が進みつつある。

今年も昨年と同様に春先の低温の影響で初期生育が遅れ、茎数がやや少なかったものの、その後の天候の回復により、収量は平年並みの見込みである。

また、農業普及課が行ったすくい取り調査結果などからカメムシによる斑点米の多発生が心配されたが、今のところ昨年に比べて極めて少ない発生に留まっている。



【水稻の収穫風景（古川町）】

大豆

燻化アサガオ除草試験実施！

9月2日、飛騨市古川町にて大豆圃場に繁殖する帰化アサガオを対象とした除草剤散布試験を行った。

このアサガオは外国からの輸入飼料に混じって侵入し、国内で増えてきた帰化アサガオで、飛騨地域でも数年前から徐々に増えてきている。この帰化アサガオは、通常の除草剤散布では駆除できないため、大豆株に巻きつく蔓で収穫作業に支障が出たり、種子の拡散・繁殖による畑地での雑草化など問題になっている。

今回農業普及課が支援のもとで、乗用管理機に専用ノズルを用いた大豆株の畦間に非選択性茎葉処理型除草剤を散布した結果、帰化アサガオに対する除草効果が高いので、今後の帰化アサガオ対策の一手段として検討する予定である。



【 畦間除草剤散布試験（古川町）】

担い手の育成・確保

高山市

飛騨トマト体感ツアーを開催！

9月10日、高山市丹生川町、滝町にて、飛騨農業振興会、農業普及課主催による「飛騨トマト体感ツアー」を開催した。

この体感ツアーは新規就農者の確保を目的に、毎年行っており、今年で5年目の開催となる。当初の予定日が台風の影響で一週間順延となったものの、トマト栽培に興味がある一般の方8名が参加した。

当日は、現地のトマト圃場を見学し、生産者から栽培・経営方法等の話を聞いたり、丹生川町の選果場では選別機械や予冷施設を見学し、市場への流通などについて学んだ。



【トマトについて説明する生産者（丹生川町）】

飛騨市河合町

飛騨農業を語る会開催！

9月27日、飛騨高山高校山田校舎（旧飛騨農林高校）と農林事務所で開催される職員研修会が、27名が出席した。

当日は、飛騨市河合町の香愛ローズグループ代表の堂前氏から「農業の6次産業化の取り組み」について講演を聞いた後、高校での教育、農林事務所での新規就農者の育成確保の取り組みの説明を受け、農業の担い手（生徒）減少、非農家出身の就農希望者支援等活発に意見交換が行われた。



【概要を説明する普及指導員（河合町）】

地域の動き等

高山市丹生川町

鳥獣害対策の地域座談会を開催！

9月27日、高山市丹生川町大萱地区にて飛騨地域鳥獣被害現地支援チーム主催による「地域座談会」が開催され、地元住民70名が出席した。

農業普及課からは地域ぐるみで取り組む鳥獣被害防止対策についての説明を行った。出席者からは「今までは個人的な対策を実施していたが、これからは集落全体で農家・非農家に関わらず地域の問題として取り組んでいきたい」との意見が出るなど、地域ぐるみの取り組みが進むきっかけとなった。



【写真 説明を聞く参加者（丹生川町）】

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成23年9月30日現在

1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（1）効率的・効果的な普及活動の支援

夏秋トマト圃場審査会の開催

県下の夏秋トマト産地である丹生川町において生育・着果・管理状況を競う圃場審査会に参加し評価指導を行った。全体的には生育の揃いも良く、今年、問題となっている葉先枯れ症や灰色かび病の発生は少なく、管理は行き届いている状況にあった。昨年の同時期は極端な高温傾向が影響し、残り段数が少なく着果量も少なかったが、今年は着果も良好であり、残り果数は昨年を上回っていることから、今後の出荷量は昨年を上回ることが予想され、最終的な実績も平年作以上が期待される。なお、今回の圃場審査における最優秀者に対しては知事賞が授与される予定である。
(野菜担当：成田久夫)



（2）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証・普及 なしの熱水土壤消毒の効果実証

土壤病害の白紋羽病で枯死したナシを改植すると高確率で再罹病することから、熱水で土壤消毒を行ってから改植する実証試験を大垣市で行っている。これまでの化学合成農薬による土壤灌注にかわり環境負荷もなく、継続的に処理できる防除方法であることから、安定した効果と普及が期待される。

(果樹担当:石川嘉奈子 病害虫担当:鈴木俊郎)



（3）普及指導員等の資質向上

「技術・経営強化（経営指導高度化）研修」を開催

9月28日、普及指導員を対象に『技術・経営強化(経営指導高度化)研修』(第4回目/全7回)を開催した。今回の研修では4名の普及指導員に対し、技術支援担当から今年度 Web 公開を行った農業経営モデル指標における売上・経費構造とその前提条件並びに今後の活用法について指導するとともに、会計事務所農業部門チーフリーダーを講師を招き「法人の特徴と法人に関する税制度」をテーマに講義を行った。内容は、法人経営・個人経営の差を明確にすることによって、法人の長所・短所、個人事業の長所・短所を明らかにさせるものであった。今回の研修を契機に、農業関係者への法人化指導を効果的に行うための実務能力をさらに高めてほしい。

(農業経営担当：遠山敬司)

「普及手法研修」を開催

9月29日、普及経験が概ね1～3年の普及職員とそのトレーナーを対象に、第2回『普及手法 研修』(全3回)を開催した。今回は前半でトレーナーを対象に、国が実施する中央研修の受講者から「普及指導員育成手法高度化研修」の報告を受け、演習を通してコーチングのポイントについての理解を促した。また、後半は日常の普及指導活動や普及手法を効果的に組み合わせた職場内研修(OJT)の中間評価を実施し、効率的・効果的な普及指導活動の進め方の習得を図った。今後、OJTを通じて普及指導員として求められる資質、<OJTの中間評価>の向上を図る。
(花き・研修担当：井戸誠二)



(4) 行政及び関係機関との連携及び情報の提供

農業大学校、施設園芸現地視察の実施

農業大学校2年生の園芸(野菜・果樹)専攻学生の現地視察について引率・指導を行った。中山間農業研究所では夏ほうれんそう、夏秋トマト、果樹(りんご、もも、山ぶどう)について、最新の研究成果について指導を受け、高山市国府町の直売所「飛騨高山特産館あじか」では11年目を迎え、民間に移行し利益を生み出し続ける運営ノウハウについてお話を伺った。飛騨市河合町では、農業大学校卒業後、就農しているOBを訪問した。特に地域外からの新規参入で0からスタートし、20aの夏秋トマトを栽培している卒業生の経営については、ほとんどの作業を1人でこなすための作業体系や労働配分に、高い関心を示している様子であった。

(野菜担当：成田久夫)



2 その他

岐阜柿生産販売会議が開催

9月7日(水)に岐阜柿生産販売会議が開催され、今年のカキ出荷計画が検討された。今年の出荷量は、記録的に少なかった前年より大きく増加する見込みで、主力の富有柿は前年比の180%を予想している。現在のところ小玉傾向であるが、今後の天候によっては大玉が期待できる。市場から、ブランド力のある岐阜のカキを確実に販売していくため、より正確な出荷予測を報告するよう要望があった。今後普及課と連携して、各地区生産者組合が、現地カキ園の着果状況を把握し市場へ正確な出荷情報を提供できるよう支援をしていく。
(果樹担当：石川嘉奈子)